



員も対象として取り組みました。今回準備した台木は「さつき」で近隣にお住いの方から格安にご提供戴きました。植替えの時期がずれてしまい台木の成長にあった取り扱いとならなかったことは反省点です。10月期には、前回配布した台木を持参して戴きましたが、生憎の夏場の暑さで、水やり、置き場等で初心者は少々苦戦を強いられました。枯らしてしまつた」という声が2、3ありました。まあ！これも経験のうちでしょう。講師からは、盆栽に向かう心構え、水やりの大切さや愛情の掛け方等について説明を戴きました。冬を越した皆さんの台木がどうなっているのか春が楽しみです。

12月の第7回花北地区文化講話

会には、奥州市水沢・黒石寺こくせきじの前住職藤波洋香氏をお招きいたしました。「コロナに負けず 人生楽しく」の演題でユーモアを交えながら約1時間の講話を戴きました。楽しく生きるために、

- ① 身体的に健康であること（健体 康心）
- ② 二病息災（二つくらい病気を 持っている方が自分の体に気を つける）
- ③ いつも好奇心を持っている
- ④ 出来るだけ孤立しない（孤独と 孤立は違う）
- ⑤ 出来るだけプラス思考で物事を 捉える

「人生に相変わらず」は無い（この世は常に変化している）だから 今日一日を大事に生きることが大

地区の先人

私財を擲なげうって花巻の発展に 尽力した伊藤儀兵衛

四日町一丁目二区自治会 鈴木 守

切なのです。明日があるということは実は当たり前のことではない（何時どうなるのか先のことは分からない）どう楽しく生きられるかという事は、その人の心の中にあるものです。講話後に皆さんの感想をお聞きしたところ「大変良いお話を聞か

せて戴いた」「機会があったらまた聞きたい」「以前にも聞かせて貰いましたが改めて感銘を受けました」等の声が聞かれました。コロナ禍でなければもつともつと多くの方々にお聞きかせたいお話でした。

私たちの自治会には「四日町」という町名が入っていて、この地域に住めることを私は誇りに思っている。それは、花巻の「四日町」の先人に伊藤儀兵衛という人がいたからだ。

ある時、「花北地区コミュニティ 消防センター」へ行った際、その入口に「花巻城下町発祥の地」と刻まれた石標があった。そのことを知って往時に思いを巡らしながら周辺を見回してみたならば、写真のようなでっかい石碑があり、それは「明治天皇御聖蹟」だと分かった。そしてここはかつて伊藤儀兵衛の宅地があった場所だということも知った。

その後、「花巻の歴史下」をたまたま見ていたならば、その名前「伊藤儀兵衛」に出会った。そして著者の及川雅義は、明治23年、東北本線が開通され、花巻駅が開業した。それまで舟運によってのみ輸送されていた物資が、簡便に遠方に送られることとなり、また、全国へつながる大動脈として東西から花巻に連絡する路線が敷かれるようになって、花巻商人の活動する舞台が繰り広げられたのである。しかし、喜ぶべきこの鉄道も、はじめはそんなに人気のあるものではなかった。地主たちは鉄道をおそれて、だれも駅の敷地